

音楽

音楽科においては、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図ることが大切です。

◆ 「内容のまとめり」の考え方

音楽科における「内容のまとめり」は、学習指導要領の「第2 各学年の目標及び内容」「2 内容」に次のように示されています。

(例)〔第2学年及び第3学年〕			
「A表現」(1)	歌唱	及び	〔共通事項〕(1)
「A表現」(2)	器楽	及び	〔共通事項〕(1)
「A表現」(3)	創作	及び	〔共通事項〕(1)
「B鑑賞」(4)	鑑賞	及び	〔共通事項〕(1)

◆ 内容のまとめりごとの評価規準の作成

①学習指導要領に示された教科及び学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを確認します。

※「評価の観点及びその趣旨」は、巻末の「学習評価等に関する参考資料のリンク集」に掲載している「改善等通知」(別紙4 14ページ)を参照してください。

②音楽科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認します。

※〔知識及び技能〕は「知識・技能」、〔思考力、判断力、表現力等〕は「思考・判断・表現」と対応しています。

③観点ごとのポイントを踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成します。

※「観点ごとのポイント」は、巻末の「学習評価等に関する参考資料のリンク集」に掲載している「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料「中学校音楽(32ページ)を参照してください。

【「A表現(2)器楽」及び〔共通事項(1)〕の内容のまとめりごとの評価規準(例)】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲想と音楽の構造や曲の背景との関わりについて理解している。 知 楽器の音色や響き奏法との関わりについて理解している。 技 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けている。 技 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付けている。	思 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫している。	態 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

◆ 題材の評価規準の作成

音楽科においては、学習指導要領に示された「内容のまとめり」は、「A表現」と「B鑑賞」の2つの領域があり、「A表現」は、歌唱、器楽、音楽づくりの3つの分野、「B鑑賞」は、それ自体が1つの領域となっています。

〔共通事項〕は、2つの領域において共通に必要な内容であることから、「内容のまとめり」ごとの評価規準を踏まえ、題材ごとに題材構成や学習過程に沿った具体的な評価規準を作成することが重要です。

例えば、第2学年の「A表現(2)器楽」に関わる題材を設定する際、学習指導要領や目標や内容、「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、次のように題材ごとの評価規準を作成します。

【「楽器の音色の違いを感じ取り、三味線の特徴を理解して演奏しよう」の題材の評価規準(例)】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 三味線の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。 技 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。	思 三味線の音色や長唄の旋律、リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	態 三味線の構造や奏法による音色の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

・「知識」については、観点の趣旨をそのまま評価規準に設定します。

・「技能」については、「創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、～で表している。」と示し、「～」の部分に、「A表現」において扱う分野に応じて、「歌唱」「器楽」「創作」から選択して置き換えます。

・「A表現」の学習では、〔共通事項〕Aに関することと、「A表現」に関することによって評価規準を設定します。

・「B鑑賞」の学習では、〔共通事項〕Aに関することと、「B鑑賞」に関することによって評価規準を設定します。

・観点の趣旨の文頭に、その題材の学習において生徒に興味・関心をもちたい事柄を「○○」として記載し、評価規準を設定します。

・「関心をもち」は、主体的・協働的に学習活動に取り組むようにするために必要なものであり、「関心をもち」のみを評価することに留意が必要です。

◆ 学習評価に関する事例

1 題材名

「楽器の音色の違いを感じ取り、三味線の特徴を理解して演奏しよう」

2 内容のまとめ

第2学年 「A表現」(2)器楽及び〔共通事項〕(1) (全4時間)

3 題材の目標

- (1) 三味線の音色や響きと奏法との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。
- (2) 三味線の音色や長唄の旋律(節回し)、リズム(間)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する。
- (3) 三味線の構造や奏法による音色の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に器楽の学習に取り組むとともに、我が国の伝統音楽に親しむ。

4 題材の評価規準

※前ページ【「楽器の音色の違いを感じ取り、三味線の特徴を理解して演奏しよう」の題材の評価規準(例)】を参照

5 指導と評価の計画(4時間) ※網掛けは、評価したことを記録に残す場面

時間	○ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法	
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三味線の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、三味線の音色や響きと楽器の構造や奏法との関わりについて知るとともに、三味線の音色や奏法への関心をもつ。 ・長唄「勸進帳」の一部を聴き、三味線の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受する。 ・実際に音を出して試すなどして、三味線の音色への関心をもち、三味線の音色や響きと楽器の構造との関わりについて知る。 ・三味線の音色や響きと楽器の構造や奏法との関わりを知り、実際に体験して、三味線の奏法への関心をもつ。 ・題材全体を通しての学習の見通しをもつ。 ・本時の振り返りをする。 				<ul style="list-style-type: none"> ○ 	行動観察 ワークシートの記述内容
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三味線の奏法を生かして長唄「勸進帳」の一節を演奏しながら、音色や響きと奏法との関わりについて理解する。 ・三味線の「スクイ」と「ハジキ」の奏法を身に付ける。 ・長唄「勸進帳」の一節を三味線で演奏する。 ・三味線の音色や響きと奏法との関わりについて理解したことをまとめる。 ・本時の振り返りをする。 	○			○	行動観察 ワークシートの記述内容
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三味線の音色や奏法を生かして、長唄「勸進帳」の一節をどのように演奏するかについて思いや意図をもつ。 ・長唄「勸進帳」の演奏をもう一度聴き、三味線の音色や奏法に気を付けて、長唄「勸進帳」にふさわしい演奏に近付けるにはどのように演奏をすればよいのかを追求し、思いや意図をもつ。 			○	○	行動観察 ワークシートの記述内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三味線の音色や響きと奏法との関わりに関心をもち、本題材の学習を振り返りながら学習活動に取り組むとともに、三味線の演奏に必要な技能を身に付ける。 ・長唄「勸進帳」の一節を演奏する。 ・題材の振り返りをする。 	○			○	行動観察 ワークシートの記述内容

【POINT】
「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、各時間に必要な指導を行いながら、個々の生徒の状況を毎時間観察していきます。
第1時～第3時までは、ワークシートの生徒の記述状況を補完的に補いつつ、第4時に総括的に評価します。

【POINT】
技能習得に取り組む学習活動において、意欲が減退している生徒には、うまくできていること等を積極的に認め、生徒が無理なく取り組めることができるよう指導します。

【POINT】
長唄にふさわしい表現に近付けるために器楽表現を創意工夫する学習活動において、活動が停滞している生徒には、再度、三味線の音色や間の取り方などに注意しながら模範演奏を聴くことを勧め、工夫できるポイントに気付かせます。

【POINT】
「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、ある場面に限定して実施するのではなく、題材を通じて行き、それを学習の改善や指導の改善に生かすとともに、観点別の学習状況を記録に残すことにつなげていくことが大切です。